

ソーシャルワーク応用実習

[実習] 第4学年 前期 選択 4単位

《履修上の留意事項》実習前後に開講されるソーシャルワーク応用実習、ソーシャルワーク応用実習と連動する科目である。

《担当者名》 近藤 尚也 n-kondo@hoku-iryo-u.ac.jp ○巻 康弘 福間 麻紀 宮本 雅央 片山 寛信 (主担当、副担当○)

【概要】

実践と研究の視点を深めながら社会福祉実践の統合化を図ることを特色とする実習である。従って、この科目を選択する学生は、研究的課題やソーシャルワークにおける実践的課題をもって実習に臨むことが必要である。

【学修目標】

- 実習分野の特性を理解することができる
- 自らが設定した実践的課題を中心に実践力を高めることができる
- 自らが設定した研究的課題を中心に研究的思考を持って実習に取り組むことができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第一週	機関理解	自らが設定するソーシャルワークに関わる実践的課題・研究的課題を理解する上での機関の特性について理解を深める	志水、巻、福間、宮本、片山、近藤
第二週	ソーシャルワーク応用実習1	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	志水、巻、福間、宮本、片山、近藤
第三週	ソーシャルワーク応用実習2	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	志水、巻、福間、宮本、片山、近藤
第四週	ソーシャルワーク応用実習3	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	志水、巻、福間、宮本、片山、近藤
第五週	ソーシャルワーク応用実習4	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	志水、巻、福間、宮本、片山、近藤

【授業実施形態】

面接授業
授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習施設・機関からの評価40%、実習態度30%、実習日誌30%などにより総合的に評価する。

【教科書】

必要に応じてプリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【学修の準備】

次回の範囲を予習(1時間)し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
自らが設定した実習課題に関わる価値・知識・技術を確認(復習)すること(1時間)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実務経験】

巻 康弘（社会福祉士） 福岡 麻紀（社会福祉士） 宮本 雅央（社会福祉士・精神保健福祉士） 片山 寛信（社会福祉士）
近藤 尚也（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。